



I 第40週の発生動向 (2026/9/28~2026/10/4)

1. 水痘について、下北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となりました。
2. インフルエンザについて、定点当たり報告数の増加が続いています。日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「つつが虫病」です。

最終ページに掲載しています。

II 第40週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

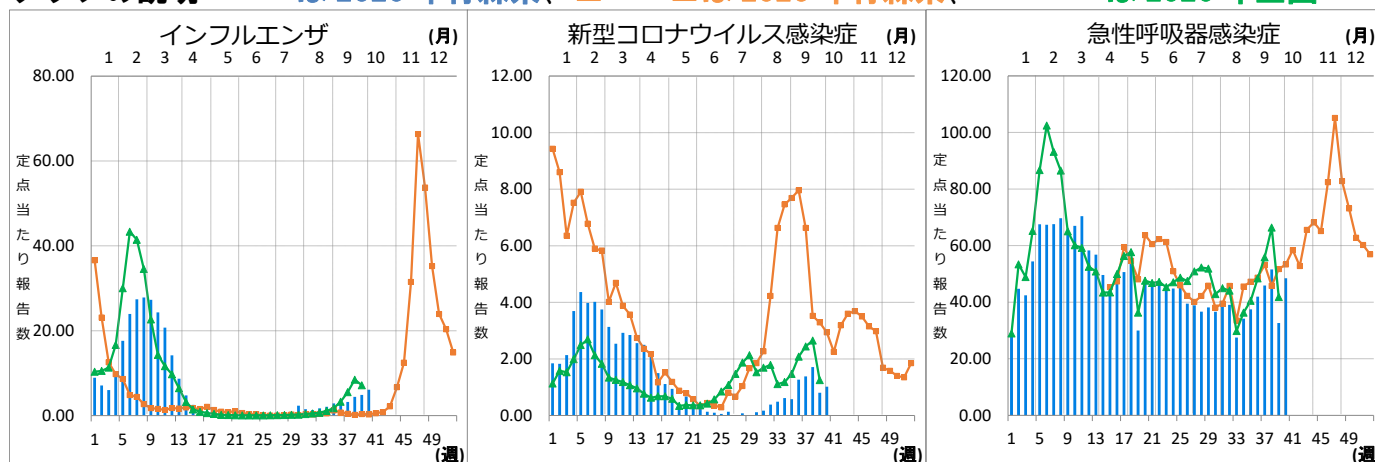
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報、「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	90	8.18	21	2.10	41	4.10	36	6.00	89	9.89	40	6.67	317	6.10	68
	新型コロナウイルス感染症	18	1.64	3	0.30	5	0.50	11	1.83	11	1.22	5	0.83	53	1.02	12
	急性呼吸器感染症	739	67.18	317	31.70	381	38.10	284	47.33	434	48.22	365	60.83	2520	48.46	856
小児科	RSウイルス感染症							1	0.20					1	0.03	-5
	咽頭結膜熱	1	0.17	2	0.33	1	0.14							4	0.12	3
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	0.17	7	1.00	5	1.00	8	1.33	3	0.75	24	0.71	2
	感染性胃腸炎	8	1.33	11	1.83	20	2.86	5	1.00			1	0.25	45	1.32	33
	水痘	1	0.17	2	0.33							7	1.75	10	0.29	0
	手足口病	2	0.33			3	0.43	2	0.40	2	0.33	2	0.50	11	0.32	-3
	伝染性紅斑															0
	突発性発しん	1	0.17	1	0.17	3	0.43							5	0.15	1
	ヘルパンギーナ					3	0.43							3	0.09	1
	流行性耳下腺炎	1	0.17	1	0.17									2	0.06	2
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎			1	0.33									1	0.10	0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											3	3.00	3	0.50	2
	無菌性髄膜炎															0

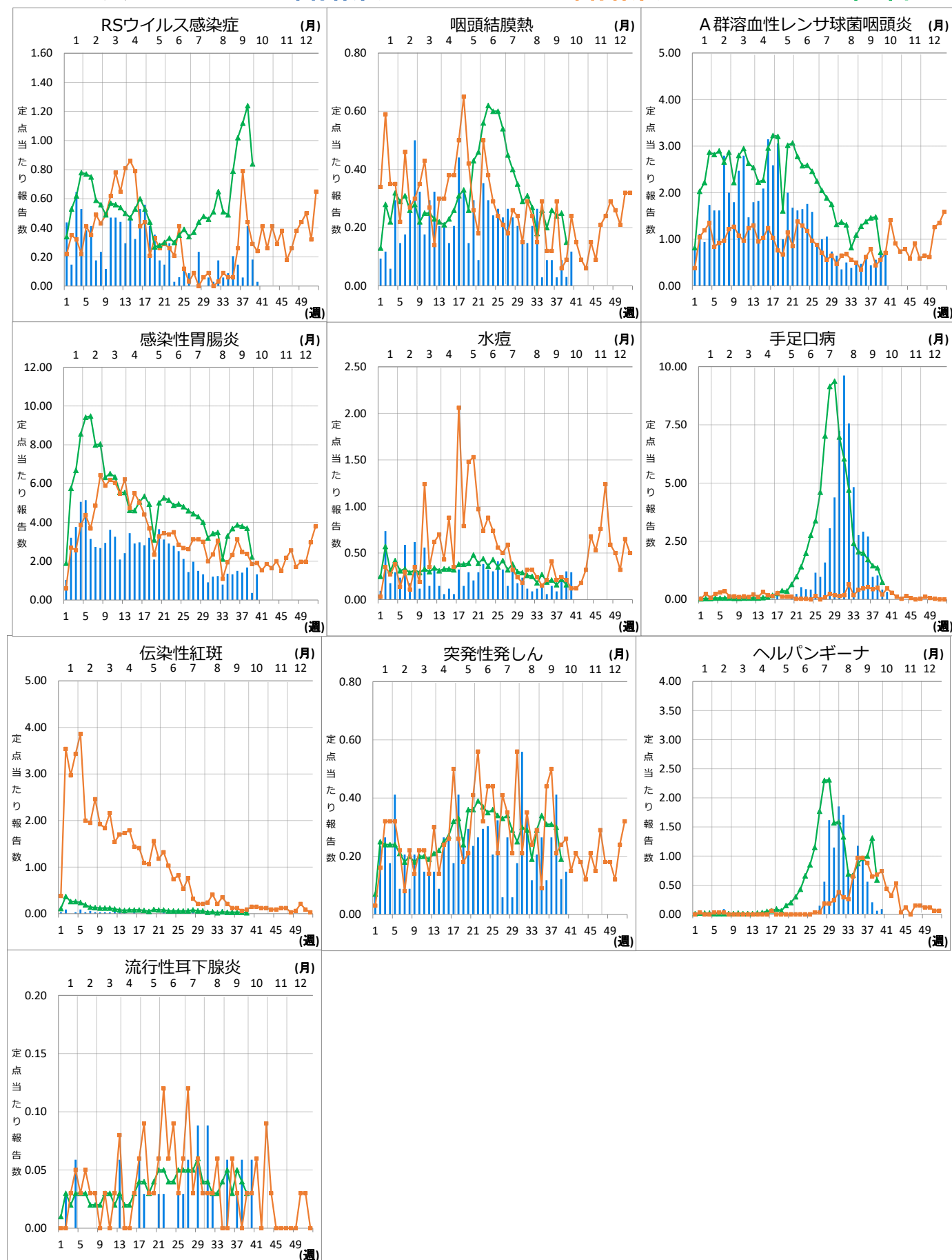
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第40週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国

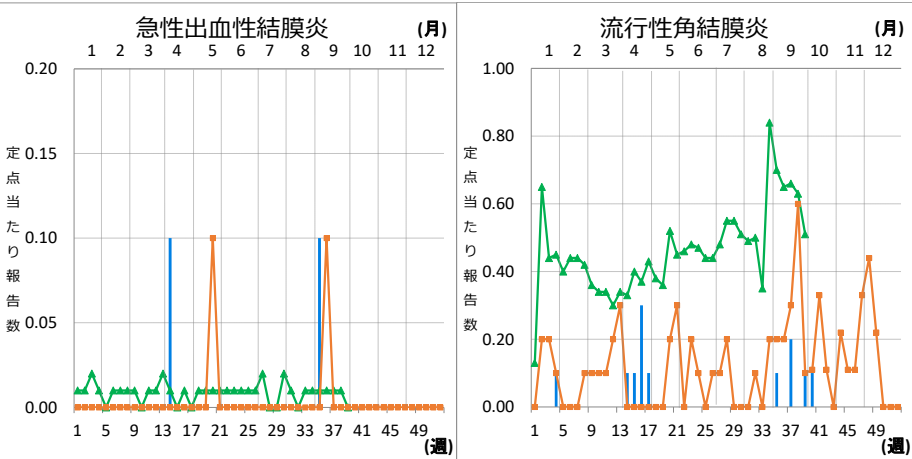


Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 40 週、ただし全国は前週）

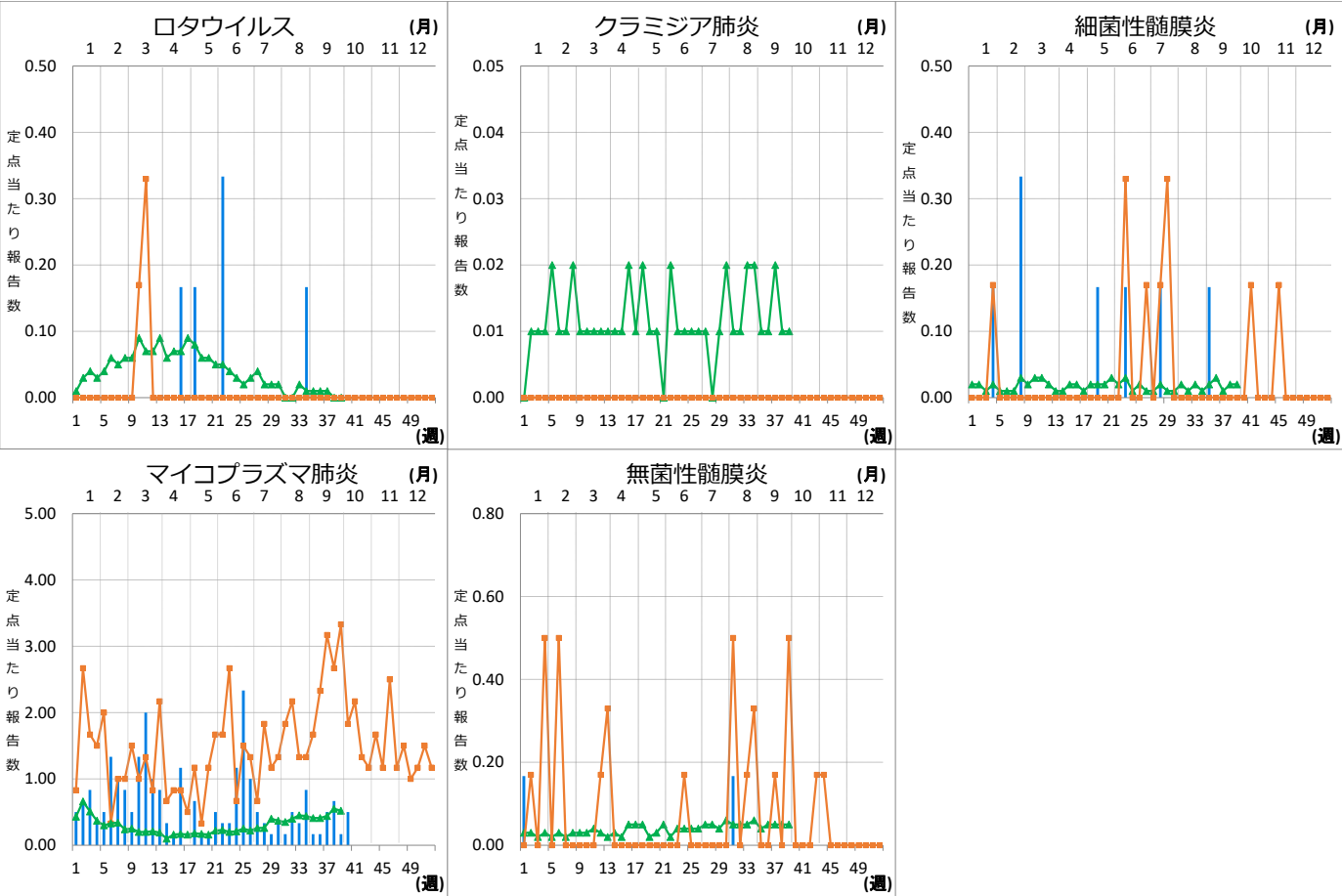
グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県、 は 2026 年全国



V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 40 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 40 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国



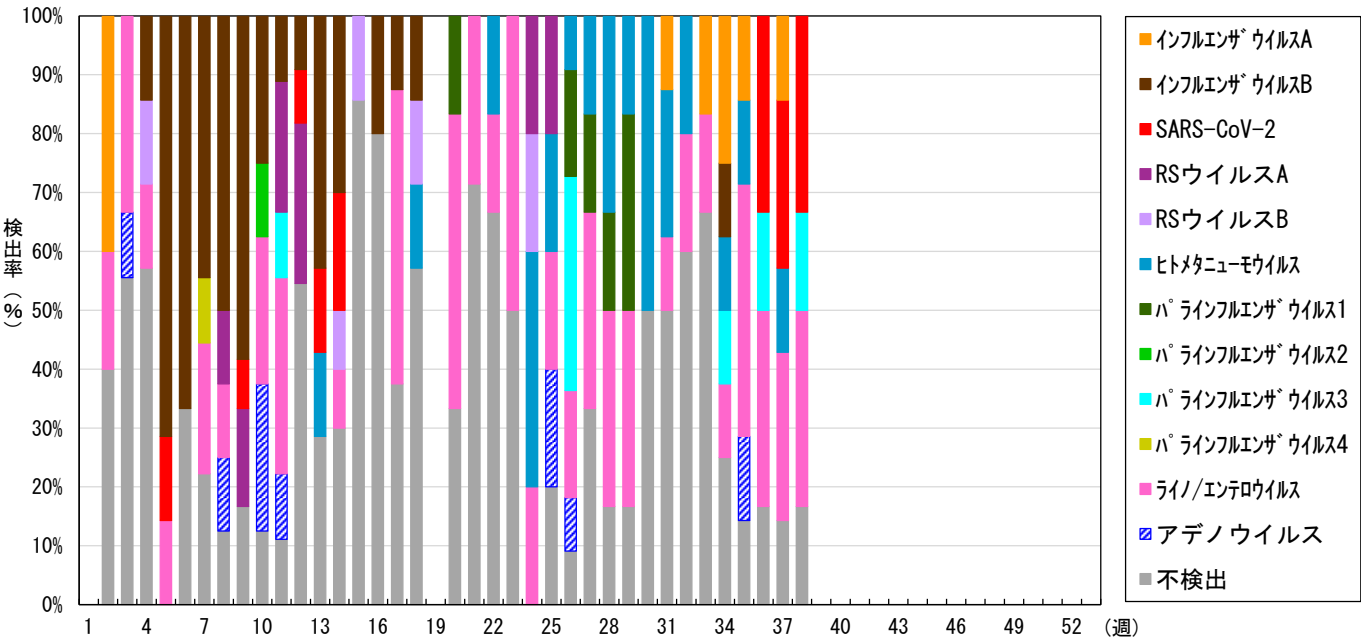
Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026 年第 33 週～40 週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
提出検体数	6	8	5	6	5	6	0	6
インフルエンザウイルスA	1	2	1	0	1	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	1	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	2	2	2	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	1	1	0	1	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	1	0	1	0	1	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	1	3	2	2	2	0	
アデノウイルス	0	0	1	0	0	0	0	
不検出	4	2	1	1	1	1	0	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	6

※第35週に採取された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。
※第37週に採取された検体のうち、SARS-CoV-2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスA及びヒトメタニューモウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026 年第 1 週～39 週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 40 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人、中南 1 人、八戸市 1 人、上北 1 人（2026 年計： 80 人）
- ・レジオネラ症（四類感染症）：青森市 1 人（2026 年計： 10 人）
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）：青森市 1 人（2026 年計： 9 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 37 週～2026 年第 40 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
37	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人				結核1人	
38	梅毒1人		結核1人	レジオネラ症2人	腸管出血性大腸菌感 染症1人	
39	腸管出血性大腸菌感 染症1人 侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人	劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人 梅毒1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人			
40	結核1人 レジオネラ症1人 侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人	結核1人	結核1人		結核1人	

第 39 週に中南保健所管内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出が 1 件ありましたので追記しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第39週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス
累積報告数	10963	1	52	3316	28	15	483	311	17	132
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウィルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱
累積報告数	5	4	6	2	149	1	4	63	104	437
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	日本脳炎	ブルセラ症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	3	1	36	4	1	1981	13	373	154	747
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	18	383	6	123	953	697	35	425	46	2005
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	644	182	8491	129	83	55	4501	4	576	10

青森県（2026年第1週～第40週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	80	2	42	3	3	10	2	7	3	12
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	百日咳	
累積報告数	2	9	1	16	7	19	1	1	29	

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅺ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 40 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第40週	報告なし		

2026 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				11月	12月	計	
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40週	41週	42週	43週	44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0	0	0							15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0	0	0							215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0							13
	発症者数	92	0	30	73	63	10	0	0	0	0							268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0							2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0	0	0							38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1	0	0	0	0							30
	発症者数	149	44	117	96	105	10	0	0	0	0							521

感染症の窓

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺されることによって発症する感染症です。潜伏期間は5日～14日程度で、発熱、頭痛や全身倦怠感を伴って発症し、特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。発熱・刺し口・発疹は主要3徴候とよばれ、およそ90%以上の患者にみられます。また、治療が遅れて重症化すると、多臓器不全を起こし死亡することがあります。

日本国内では北海道を除く全国で報告され、春から初夏と、秋から初冬に二峰性のピークがみられます。青森県における発生状況は図のとおりです。

5～6月に多く報告されますが、11月前後にも比較的多く報告されており、全国と同様の傾向がみられます。つつが虫病に対するワクチンはなく、予防にはツツガムシの吸着を防ぐことが大切です。つつが虫病が多発する時期には、草むらや山林等には極力立ち入らないことが最も有効な予防策です。農作業や山菜取り等で草むらや山林等に立ち入る際には、長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用して素肌の露出は避け、忌避剤（有効成分ディート等）を適宜使用しましょう。また、作業後は、早めに入浴して体に付着したダニを洗い流すようにしましょう。山林などに立ち入った後、1～2週間経ってカゼ様の症状や発疹、リンパ節の腫れ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診しましょう。その際には、これらの場所に立ち入ったことや、刺し口の有無を医師にお話してください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。
つつが虫病(国立健康危機管理研究機構 HP)

つつが虫病

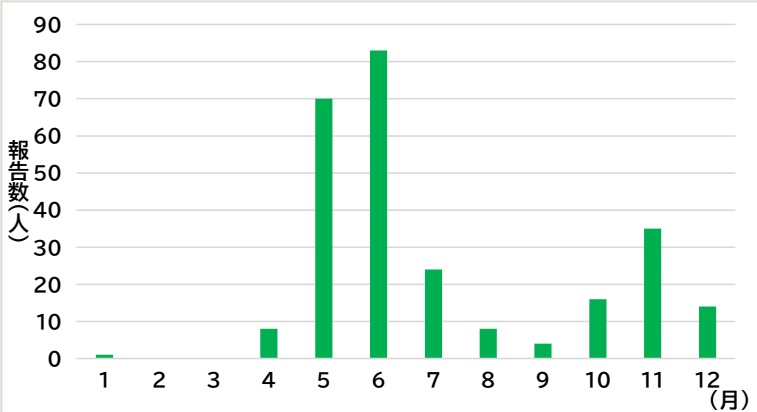


図 青森県におけるつつが虫の月別報告数（2007～2025年）

